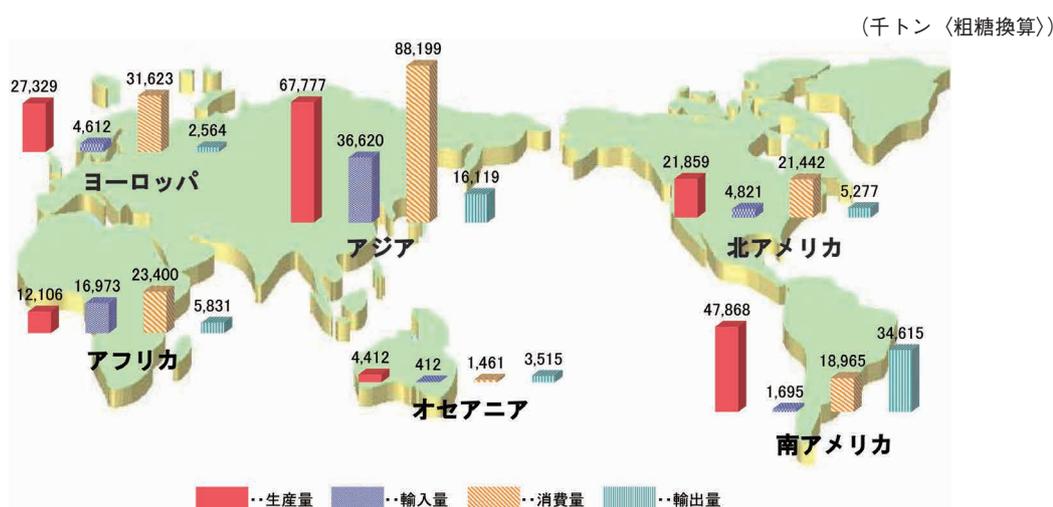


砂糖の国際需給

調査情報部 塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給（2021年6月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2020/21年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2021」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1990/91	31,180	114,134	26,729	106,623	28,254	37,165	34.9
1995/96	44,812	122,392	33,811	116,115	36,615	48,284	41.6
2000/01	64,678	130,768	38,567	131,079	40,945	61,989	47.3
2005/06	57,700	151,186	47,535	150,003	50,013	56,404	37.6
2010/11	50,664	166,769	54,668	165,768	58,206	48,128	29.0
2015/16	73,842	175,955	67,776	178,675	69,077	69,822	39.1
2016/17	69,822	180,387	70,759	181,369	71,288	68,310	37.7
2017/18	68,310	195,522	65,728	181,179	67,620	80,761	44.6
2018/19	80,761	186,527	61,049	183,854	61,307	83,176	45.2
2019/20	83,176	181,801	69,477	181,909	70,731	81,813	45.0
2020/21 (2021年3月予測)	82,578	182,739	66,833	184,380	68,743	79,028	42.9
2020/21 (2021年6月予測)	81,813	181,350	65,135	182,304	67,921	78,074	42.8

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2021」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2018/19年度および2019/20年度の数値は推定値、2020/21年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

〈お詫びと訂正〉

2021年7月号および8月号の「砂糖の国際需給 1. 世界の砂糖需給および2. 主要国の砂糖需給」につきまして、誤りがありました。お詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正いたします。

【正】消費量：1億8230万トン（同0.2%増）期末在庫率：42.8%（同2.1ポイント減）消費量その他：41%

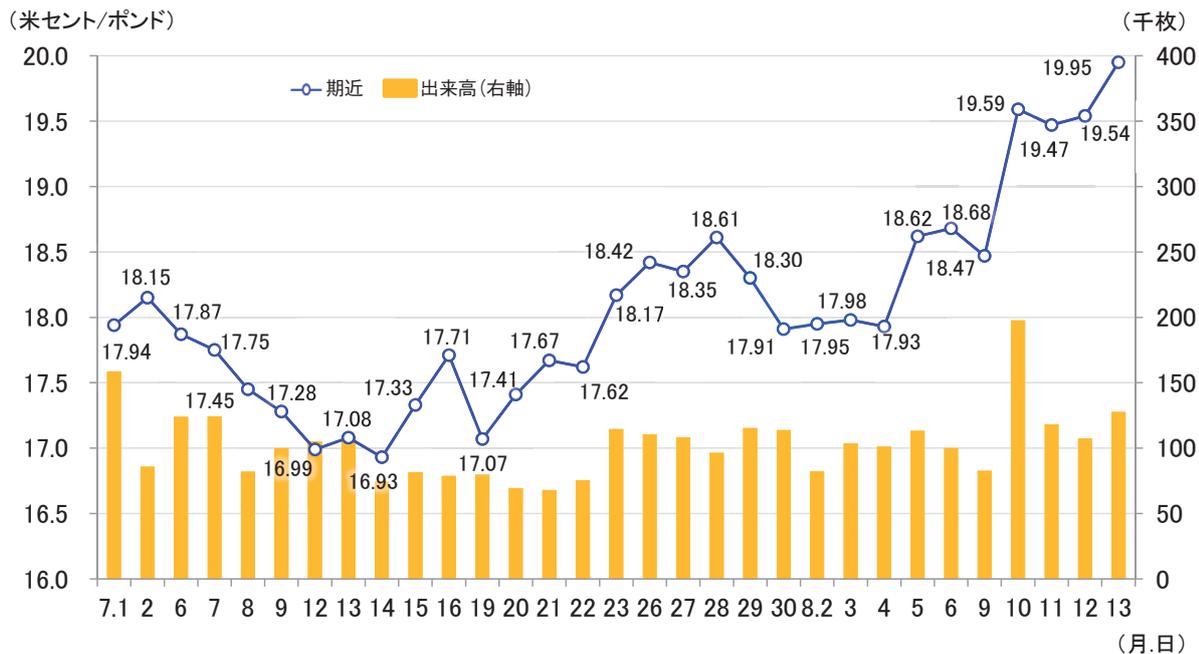
【誤】消費量：1億8509万トン（同1.7%増）期末在庫率：42.2%（同2.8ポイント減）消費量その他：42%

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（7/1～8/13）

～ブラジル産サトウキビの不作への懸念から、約4年半ぶりに19セント台まで上昇～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)
注：期近10月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2021年7月の推移を見ると（10月限）、1日は、ブラジルの一部のサトウキビ産地で発生した霜への懸念^(注1)や原油価格の上昇^(注2)を受けて、1ポンド当たり17.94セント^(注3)を付けた。2日は、前日の流れを引き継ぎ、同18.15セントまで上昇した。6日は、ブラジルの霜被害が予想より小さかったことや、原油価格の下落から、同17.87セントまで値を下げた。7日以降は、リアル安^(注4)などに伴い続落した。12日は、ブラジル中南部地域における6月後半の砂糖生産量が前年同期からやや増加したことにより、同16.99セントまで下落した。14日は、インドの2021/22年度の砂糖生産量が前年度よりわずかに増加するとの予測が発表された影響で、同16.93セントと下落した。16日は、ブラジルで再び霜が降りるとの予

測から、同17.71セントまで値上がりした。19日は、原油価格の下落によって同17.07セントまで値を下げた。20日は、ブラジルの一部地域に霜が降りたことで同17.41セントまで上昇し、21日は同17.67セントと続伸した。22日は小幅に下落したものの、23日は、降霜がサトウキビへ与えた被害は大きい可能性があるとしてブラジルさとうきび産業協会（UNICA）が述べたことで、同18.17セントと急伸した。26日以降もブラジルの天気予報の影響を受けて変動が続き、28日は、翌日にサトウキビ主産地の気温が氷点下まで下がると予報されたことから、同18.61セントまで値を上げた。30日は、前日に降った霜の被害は限定的なものであったと報じられ、同17.91セントまで値を下げた。

8月2日以降はもみ合いが続いたが、5日は、ブ

ブラジルの砂糖生産量が干ばつや霜の影響により減少するとの予測が市場に広まったことで、同18.62セントと急伸した。10日は、UNICAが7月後半の中南部地域の砂糖生産量は前年同期から10%以上落ち込んだと発表したことなどから、同19.59セントまで急伸した。11日以降もブラジルの干ばつや霜の影響が懸念されて高水準で推移し、13日は同19.95セントまで値を上げた。

(注1) 霜害を受けたサトウキビは、成長不良のほか、枯死、品質低下などが生じるため、早期収穫のうえ、圧搾まで行う必要があるが、その際、適期に達していないサトウキビも多く収穫されてしまうことで、単収が低下する恐れがある。

(注2) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料

であるバイオエタノールの需要も上昇する。バイオエタノールの需要上昇により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの割合が小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

(注3) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注4) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2021年8月時点予測)

ブラジル

2021/22年度(4月～翌3月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：863万ha(前年度比0.8%減)

生産量：5億9100万トン(同10.1%減)

【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量：3829万トン(同14.1%減)

輸出品量：2732万トン(同19.7%減)

2021/22年度の砂糖生産量はかなり大きく、輸出品量は大幅に減少する見込み

LMC International(農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社)による2021年8月時点の予測によると(以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述)、2021/22年度(4月～翌3月)のサトウキビ収穫面積は、863万ヘクタール(前年度比0.8%減)とわずかに減少すると見込まれる(表2)。サトウキビ生産量は、生育期間における降雨量が少なく、単収が減少することで、5億9100万トン(同10.1%減)とかなりの程度減少すると見込まれる。砂糖生産量は、国際価格の上昇や新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に

よるバイオエタノール需要の不透明感などを背景に、前年度に引き続き多くの製糖業者が砂糖の生産割合を高めると予想されるものの、原料の減産を受けて、3829万トン(粗糖換算(以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算)、同14.1%減)とかなり大きく減少すると見込まれる。輸出品量も、砂糖の減産を背景に、2732万トン(同19.7%減)と大幅に減少すると見込まれる。

一部のサトウキビ産地で、大寒波による霜害が発生

現地報道によると、現在冬季のブラジルの一部地域では、6月末以降、南極からの寒波に見舞われ、

一部のサトウキビ産地で霜害が発生した。UNICAによると、霜害を受けたサトウキビの早刈りの影響により、中南部地域における7月前半のサトウキビの単収は1ヘクタール当たり68.2トン（前年同期比13.7%減）となった。最初の霜害は6月30日から7月1日にかけて発生し、7月20日に発生した2回目の霜は、1994年以降で最も深刻なものとのさ

れ、UNICAはこの度のサトウキビの霜害は甚大な可能性があるコメントした。

同国では、前年から続く干ばつの影響でサトウキビやトウモロコシ、コーヒーなど多くの農産物の減産が予測されていたが、今回の霜害は砂糖産業にとってさらなる追い打ちとなる可能性が懸念されている。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (7月予測)	2021/22 (8月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,649	8,599	8,702	8,633	8,633	▲ 0.8%	
サトウキビ生産量	620,832	642,677	657,162	591,000	591,000	▲ 10.1%	
砂糖	生産量	31,225	31,804	44,593	38,810	38,290	▲ 14.1%
	輸入量	3	2	2	2	2	▲ 17.3%
	消費量	10,374	10,842	10,996	11,325	11,015	0.2%
	輸出量	21,017	20,321	34,038	27,488	27,316	▲ 19.7%
	期末在庫量	3,132	3,774	3,337	242	3,298	▲ 1.2%
	期末在庫率	10.0	12.1	7.4	0.6	8.6	1.2ポイント増

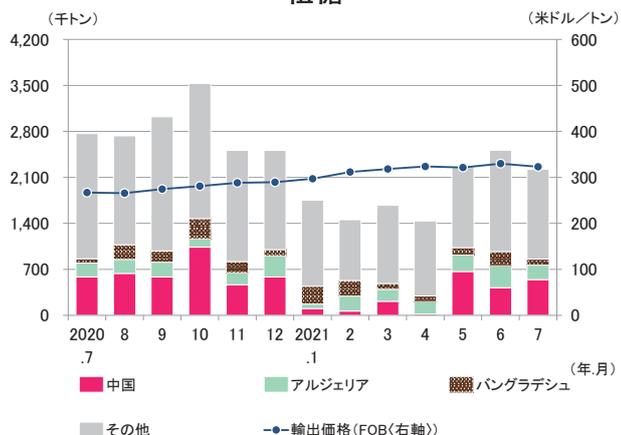
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2021」

注1：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

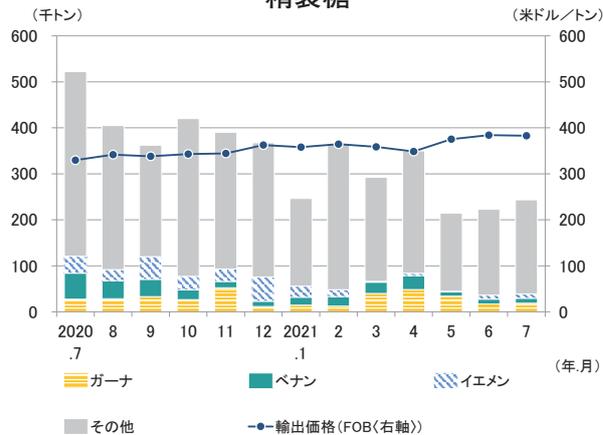
注2：LMCによる期末在庫量の見直しにより、各年度の数値が変更され、8月予測の期末在庫量は前月予測から大幅に増加した。

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

インド

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：489万ha（前年度比5.3%増）
生産量：4億198万トン（同8.8%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：3343万トン（同13.6%増）
輸出量：793万トン（同3.9%減）

2020/21年度は増産するも、輸出促進策の発表の遅れなどを受け、輸出量はやや減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、豪雨による大規模な圃場の浸水被害に見舞われた前年度からの反動で、489万ヘクタール（前年度比5.3%増）とやや増加すると見込まれる（表3）。ウツタル・プラデーシュ州で赤腐病（red rot）^{（注1）}の被害が確認されているものの、マハラシュトラ州では、年間降雨量が集中するモンスーン期（6～9月）における降雨が潤沢であったことから、サトウキビ生産量は4億198万トン（同8.8%増）とかなりの程度、砂糖生産量は3343万トン（同13.6%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

輸出量は、輸出促進策の政府発表の遅延^{（注2）}が影響するなどして、結果として前年度ほどの輸出水準には届かず、793万トン（同3.9%減）とやや減少すると見込まれる。

（注1）真菌の感染によって引き起こされる病気で、茎の内部が腐り、赤色に変色する。サトウキビの単収や砂糖の回収率に深刻な影響を与えるとされている。

（注2）インド政府の2020/21年度における砂糖の輸出政策の経緯については、『砂糖類・でん粉情報』2020年11月号のインドの項「ISMA、2020/21年度における砂糖の輸出政策の早期発表を首相官邸に要請」（https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002327.html）も参照されたい。

表3 インドの砂糖需給の推移

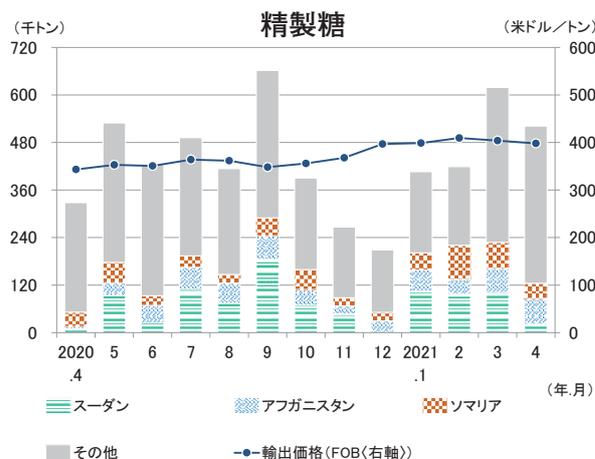
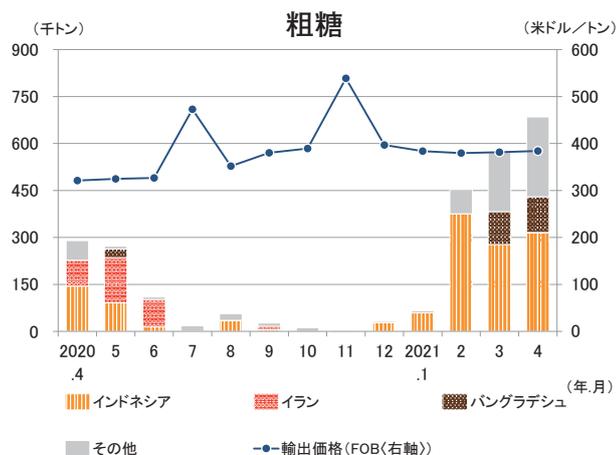
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 （7月予測）	2020/21 （8月予測）	前年度比 （増減率）	
サトウキビ収穫面積	4,794	4,960	4,642	4,888	4,888	5.3%	
サトウキビ生産量	404,399	404,528	369,637	401,983	401,983	8.8%	
砂糖	生産量	35,043	35,798	29,437	33,426	33,426	13.6%
	輸入量	2,308	664	1,687	1,080	1,026	▲39.2%
	消費量	27,421	27,540	27,108	27,216	28,080	3.6%
	輸出量	2,360	5,483	8,254	8,222	7,928	▲3.9%
	期末在庫量	11,523	14,962	10,724	9,757	9,168	▲14.5%
	期末在庫率	38.7	45.3	30.3	27.5	25.5	4.9ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

中国

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：116万ha（前年度比1.6%減）

生産量：7360万トン（同3.5%減）

【てん菜】

収穫面積：23万ha（同8.8%増）

生産量：1238万トン（同13.6%増）

【砂糖（甘しや糖およびてん菜糖）】

生産量：1153万トン（同2.4%増）

輸入量：714万トン（同6.8%増）

2020/21年度の輸入量は、かなりの程度増加する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、雲南省では増加が見られるものの、広西チワン族自治区と広東省での減少を受けて、116万ヘクタール（前年度比1.6%減）とわずかに減少し、サトウキビ生産量も、7360万トン（同3.5%減）とやや減少すると見込まれる（表4）。また、同年度のてん菜の収穫面積は、内モンゴル自治区において、てん菜の買い取り価格が引き上げられたこ

とから、生産者は作付面積を拡大し、収穫面積は23万ヘクタール（同8.8%増）とかなりの程度増加すると見込まれ、てん菜生産量も、単収の増加に伴い1238万トン（同13.6%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、1153万トン（同2.4%増）とわずかに増加すると見込まれる。輸入量は、714万トン（同6.8%増）とかなりの程度増加すると見込まれる。

表4 中国の砂糖需給の推移

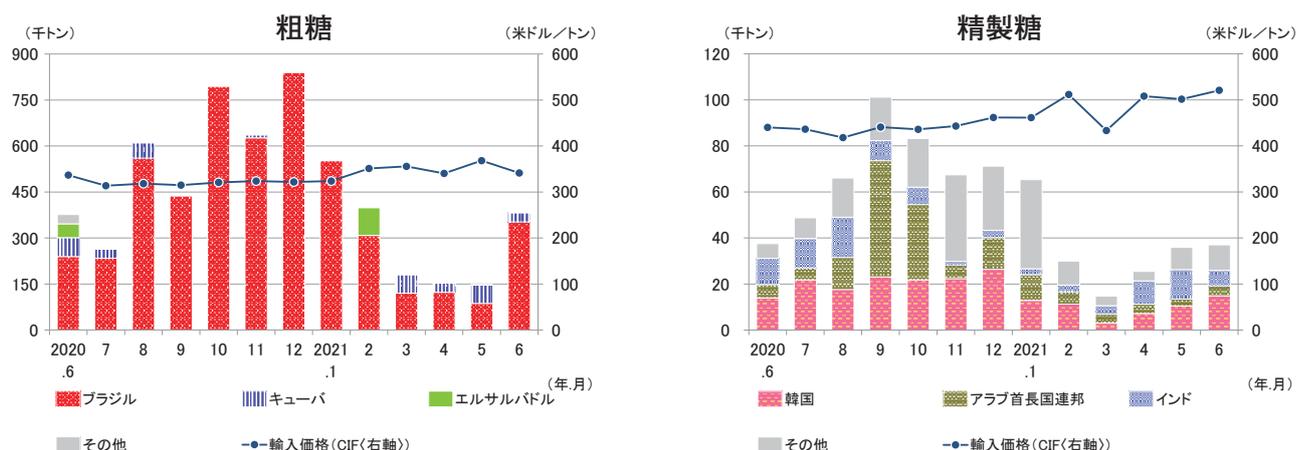
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (7月予測)	2020/21 (8月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,231	1,219	1,176	1,157	1,157	▲1.6%	
サトウキビ生産量	76,780	78,590	76,231	73,600	73,600	▲3.5%	
てん菜収穫面積	186	243	213	231	231	8.8%	
てん菜生産量	9,590	11,670	10,900	12,380	12,380	13.6%	
砂糖	生産量	11,147	11,640	11,258	11,530	11,530	2.4%
	輸入量	6,033	5,052	6,685	7,134	7,137	6.8%
	消費量	16,414	16,522	16,414	16,849	16,849	2.6%
	輸出量	182	210	192	170	170	▲11.5%
	期末在庫量	11,273	11,233	12,571	14,218	14,220	13.1%
	期末在庫率	67.9	67.1	75.7	83.5	83.6	7.9ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量(累計)上位3カ国を表示。

E U

2020/21年度(10月～翌9月)の見通し

【てん菜】

収穫面積：148万ha(前年度比2.8%減)

生産量：9890万トン(同10.1%減)

【砂糖(てん菜糖)】

生産量：1520万トン(同10.4%減)

輸出量：112万トン(同22.4%減)

2020/21年度の輸出量は、大幅に減少する見込み

2020/21年度(10月～翌9月)のてん菜の収穫面積は148万ヘクタール(前年度比2.8%減)とわ

ずかに減少すると見込まれる(表5)。てん菜生産量は、EU最大のてん菜生産国であるフランスで感染が広がる萎黄病(注)の被害を受けて、9890万トン(同10.1%減)とかなりの程度減少すると見込

まれる。てん菜生産量の落ち込みにより、砂糖生産量は1520万トン（同10.4%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。輸出量は、砂糖生産量の減少によって輸出余力が低下し、112万トン（同22.4%減）と大幅に減少すると見込まれる。

（注）アブラムシによって媒介されるウイルス性の病気で、葉が黄色く変色し、てん菜の単収や砂糖の回収率の低下を引き起こすとされている。

欧州食品安全機関、糖類摂取量の削減に関する見解を発表

欧州食品安全機関（EFSA）は7月22日、糖類の摂取に関する科学的な見解の草案を公表した。EFSAは、デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、スウェーデンの5カ国から2010年に実施した糖類の安全性評価を更新するよう要望を受

け、糖類の摂取とさまざまな疾病^{（注1）}との関連性について、近年発表された3万件以上の論文に基づき改めて調査した。その結果、糖類摂取の耐容上限量（UL）^{（注2）}の設定は不可能であるものの、可能な限り摂取量を削減することが望ましいと結論づけた。EFSAは、草案に対するパブリック・コメントの募集を9月30日まで行うと共に、9月21日に草案について公に議論を行う予定であるとしている。

これに対し欧州砂糖製造者協会（CEFS）は、草案の発表に当たりEFSAが十分な時間をかけて科学的な調査を実施したことに謝意を示しつつも、パブリック・コメント募集に対し同協会からの意見を提出する予定であると述べた。

（注1）肥満、2型糖尿病、心血管疾患、痛風、虫歯など。

（注2）健康障害をもたらす危険がないとみなされる習慣的な摂取量の上限値。

表5 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

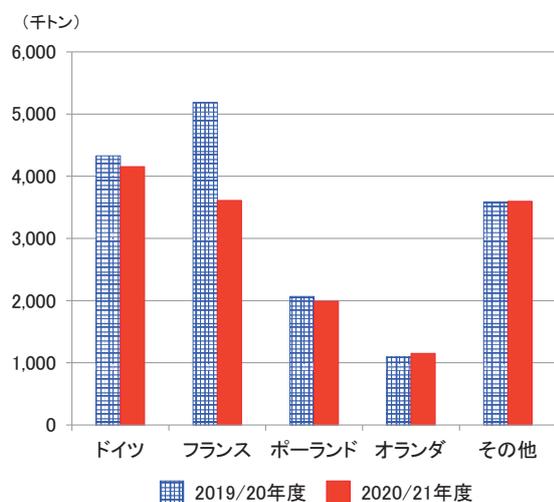
年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (7月予測)	2020/21 (8月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,624	1,599	1,517	1,475	1,475	▲ 2.8%	
てん菜生産量	130,930	104,224	110,054	99,313	98,899	▲ 10.1%	
砂糖	生産量	20,353	17,083	16,954	15,193	15,198	▲ 10.4%
	輸入量	1,566	2,349	2,230	1,946	1,795	▲ 19.5%
	消費量	17,451	17,547	17,108	16,864	16,888	▲ 1.3%
	輸出量	4,270	2,391	1,436	1,221	1,115	▲ 22.4%
	期末在庫量	2,209	1,704	2,344	1,399	1,333	▲ 43.1%
	期末在庫率	10.2	8.5	12.6	7.7	7.4	5.2ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

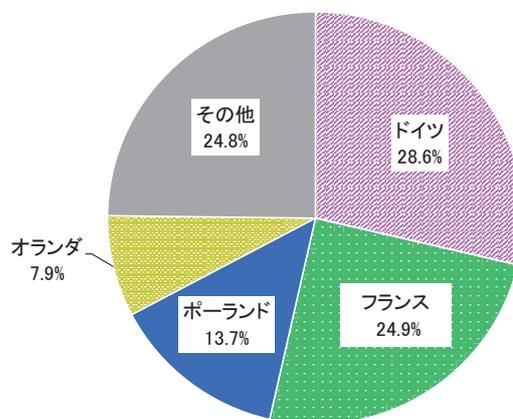
(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合 (2021年4月時点)

EUの砂糖生産見通し



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算。
注2：2020/21年度は予測値。

国別の生産割合



資料：欧州委員会
注：2020/21年度の予測値に基づく割合。

4. 日本の主要輸入先国の動向 (2021年8月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州およびタイで、2020年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が86.6%（前年比5.2ポイント増）、タイが10.5%（同8.1ポイント減）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

本稿中の為替レートは2021年7月末日TTS相場の値であり、1タイバーツ=3.41円である。

豪州

2021/22年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：35万ha（前年度比1.2%減）
生産量：3146万トン（同1.0%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：436万トン（同1.7%増）
輸出量：331万トン（同1.3%減）

2021/22年度の砂糖生産量は、わずかに増加する見込み

2021/22年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、35万ヘクタール（前年度比1.2%減）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、3146万トン（同1.0%増）とわずかに増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、6～7月の降雨量が平年値を下回り、サトウキビの可製糖率（CCS）が前年度より上昇したことから、436万トン（同1.7%増）とわずかに増加すると見込まれる。輸出量は331万トン（同1.3%減）と、前月予測からは上方修正されたものの、依然として減少傾向が続くと見込まれている。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (7月予測)	2021/22 (8月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	379	364	354	350	350	▲ 1.2%	
サトウキビ生産量	32,493	30,044	31,132	31,010	31,459	1.0%	
砂糖	生産量	4,717	4,293	4,281	4,293	4,355	1.7%
	輸入量	18	16	10	15	15	50.9%
	消費量	1,044	1,056	1,036	1,062	1,062	2.5%
	輸出量	3,562	3,449	3,357	3,243	3,313	▲ 1.3%
	期末在庫量	971	776	674	664	670	▲ 0.6%
	期末在庫率	21.1	17.2	15.3	15.4	15.3	0.0ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：149万ha（前年度比13.3%減）

生産量：6666万トン（同11.0%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：783万トン（同11.1%減）

輸出量：457万トン（同44.1%減）

2020/21年度の輸出量は、前年度比4割減の見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、前期作でのキャッサバなどの代替作物の収益性が高かったことから、今期作では代替作物がより多く作付けされたことにより、149万ヘクタール（前年度比13.3%減）とかなり大きく減少すると見込まれる（表7）。加えて今期のサトウキビ生産量は、前期に続き干ばつの影響を受け、6666万トン（同11.0%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの品質が向上したもの

の^(注)、サトウキビ生産量が落ち込んだことで、783万トン（同11.1%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。砂糖の減産や在庫量の減少に伴い輸出余力が低下し、輸出量は457万トン（同44.1%減）と大幅に減少すると見込まれる。

(注) タイ政府の焼き畑抑制政策により、焼き畑によるサトウキビ収穫量が減少したため。焼き畑を行うと、サトウキビに含まれるショ糖が分解され、CCS（可製糖率：サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合）が低下する。

表7 タイの砂糖需給の推移

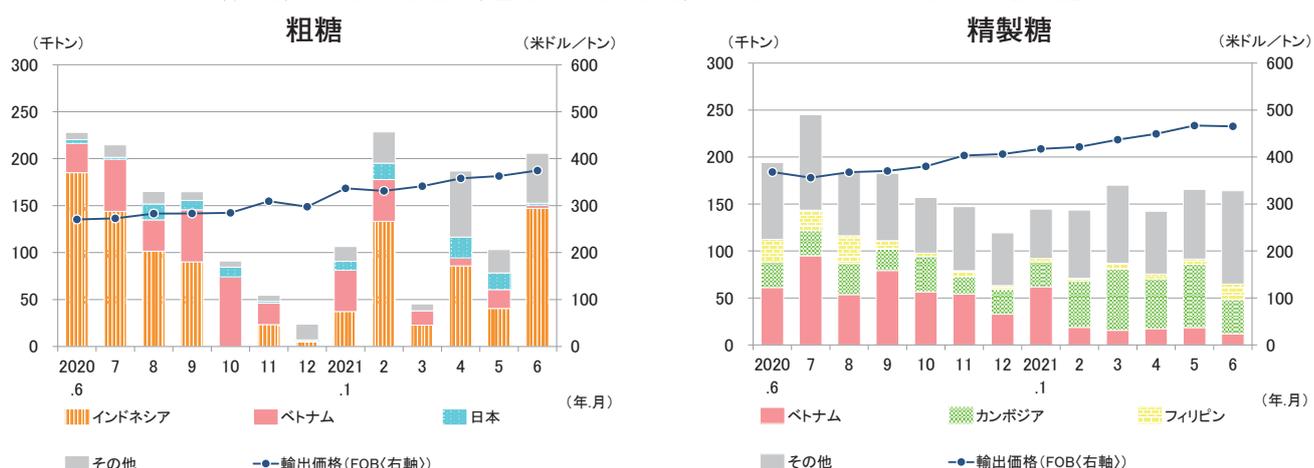
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (7月予測)	2020/21 (8月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,790	1,913	1,714	1,485	1,485	▲ 13.3%
サトウキビ生産量	134,929	130,970	74,893	66,659	66,659	▲ 11.0%
砂糖	生産量	15,586	15,457	8,807	7,829	▲ 11.1%
	輸入量	5	4	59	48	▲ 18.7%
	消費量	3,434	3,737	3,773	3,700	▲ 3.1%
	輸出量	9,820	10,113	8,162	4,805	▲ 44.1%
	期末在庫量	6,289	7,899	4,830	4,202	▲ 7.1%
	期末在庫率	47.4	57.0	40.5	49.4	54.6

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

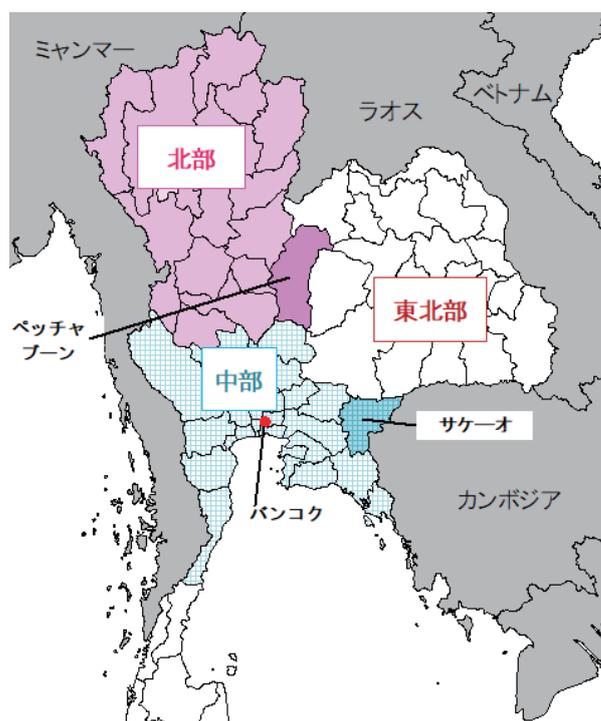
製糖工場でクラスター発生、労働力不足でサトウキビ収穫に影響も

タイ北部にあるペッチャブーン県(図3)の知事は7月28日、県内の製糖工場で100名の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の陽性者が確認されたことを明らかにした。感染者は工場内の仮設病院で隔離・治療を受けるとともに、製糖工場に対し7日間の一時的閉鎖措置が取られるとしている。

サトウキビ・砂糖委員会事務局(OCSB)の副事務局長は、COVID-19の感染拡大の影響により、

サトウキビの主産地では季節労働者の確保が困難になるとし、例年12月頃から始まる2021/22年度(10月~翌9月)の収穫作業に遅れが生じる可能性があるとの懸念を示した。同副事務局長によると、その対策として、季節労働者の受け入れ前に抗原検査を実施するなど、すべての製糖工場でもより厳格な対策が講じられるとしている。また、カンボジアと国境を接するサケーオ県周辺では、隣国からの労働者不足を見据え、今年度と同様に他の収穫終了地域から収穫機を借りて対応するとしている。

図3 ペッチャブーン県およびサケーオ県の位置



資料：農畜産業振興機構作成

タイ製糖協会、インドの輸出補助金廃止に向けて工業省へ支援を要請

7月30日付の現地報道によると、タイ製糖協会（TSMC）は、タイ工業省に支援を要請し、インド政府に対して砂糖の輸出補助金を廃止するよう働きかける予定だという。インド政府に対するこうした働きかけには、豪州砂糖製造業者協議会（ASMC）や同国クイーンズランド州のサトウキビ生産者団体CANEGROWERSも参加するとされている。TSMCの代表は、「インドの輸出補助金の影響でタイの砂糖産業は年間約100億バーツ（341億円）の損害を被っている」と述べている。

2019年2月から3月にかけて、豪州、ブラジルおよびグアテマラの3カ国は、砂糖の輸出補助金をはじめとしたインド政府の砂糖産業への支援政策が国際市場での公平な競争をゆがめているとして、世界貿易機関（WTO）協定に基づく協議をインドに要請したが、協議は決裂した。同年8月にパネルが設置されたものの、パネルの最終報告書は未だ当事国に送付されておらず、最終的な解決には至っていない。なおタイは、第三国（本件に利害関係を有するなどの理由によりパネルに参加することが可能な国）として本件に参加している。